

新元号「令和」、一時の騒動ですが！

●「同窓会」にも問い合わせがあって

4月1日に新元号「令和」の発表があって、同窓会がいろいろと忙しいようです。



■元号「令和」で話題沸騰の「麗和」の由来

4月1日(月)正午前に新元号「令和」が発表されました。その直後から同窓会にマスコミからの取材電話が相次ぎました。朝日新聞、NHK、埼玉、読売、TBSの取材があり、埼玉新聞は直接麗和会館まで取材に来ました。たまたま埼玉新聞の取材の最中に、レイワ総合企画の小菅恒雄会長(高7)が、「取材の電話が鳴りっぱなしで大変だ！」と報告に訪れたため、一緒に取材されることになりました。記事の詳細については各紙をご覧ください。この機会に「麗和」の由来についてお伝えします。添付のPDFは、平成27年9月に120周年記念事業の一つとして同窓会が行った麗和会館資料展示室のリニューアルオープンに際して作成したパネルの元原稿です。明治10年代に県庁を中心とする文化社会の中で、「浦和」の「浦」を字面も美しく「麗(うら)らか」の「麗」の字に置き換え「麗和」と書いて「うらわ」と読んでいたのが、いつの間にか「れいわ」と読むようになり、やがて経緯が分からなくなったということのようです。

【浦高同窓会HP「新着情報」2019/04/12より】

http://urako-tama.com/?page_id=154



■新元号「令和」膨らむ期待



(前略)。県立浦和高校の同窓会は「麗和会(れいわかい)」。事務局長の藤野龍宏さん(67)は「いい響き。この『れいわ』が枕詞となって、歴史ある浦中・浦高の同窓会がアピールできる」と喜んだ。

(後略)。【朝日新聞・埼玉版、04/02

より】【写真は4月3日のテレ朝ニュース(夕方)の一場面、藤野事務局長と浦高が紹介されています】



この朝日新聞の記事には、春日部市在住の小笠原令和(よしかず)さんのことや5月3日と5日に春日部市宝珠花地区で行われる大凧あげ祭りで「令和」の「元年」の大凧が揚げられることなどが紹介され、喜びが重まりました。

さて、こうした嬉しい記事を紹介して下さるのが、同窓会HP委員会、会報『麗和』編集委員の鯨井さん(19回)です。今日のお知らせでも…。



■第8回梅棹忠夫・山と探検文学賞に佐藤優さんの「十五の夏」

民族学者・文化人類学者の梅棹(うめさお)忠夫さん(1920~2010年)にちなんだ「梅棹忠夫・山と探検文学賞」(同賞委員会主催、信濃毎日新聞社など協賛)の第8回受賞作に、作家で元外務省主任分析官の佐藤優(まさる)さん(59)＝東京都＝の「十五の夏」(上下巻、幻冬舎刊)が2日までに選ばれた。受賞作は、佐藤さんが埼玉県立浦和高校1年生の夏休みに経験した、東欧・ソ連への一人旅の回想録。冷戦下の1975(昭和50)年当時、共産圏諸国の情報は限られていた。出入国を巡るトラブルもあった。珍しい風景や食事のほか、さまざまな考えの人たちとの出会いと語り、生き生きと再現している。



佐藤さんは同志社大大学院修了後、外務省に入り、在ロシア日本大使館、国際情報局などで勤務。2002年、鈴木宗男元衆院議員の事件に関連して背任などの疑いで逮捕、起訴された。有罪が確定したが、13年に執行猶予期間を満了した。著書は「国家の罨(わな)」 「自壊する帝国」など多数。16年、須坂市で開かれた信州岩波講座で「沖縄と日本」と題して講演した。21作品から選ばれた。「少年の視点と、40年余たって書いた大人の視点とを交錯させた“人間発見”の手法が見事」などと評価された。佐藤さんは『山と探検』賞と聞いて意外な気がしたが、よく考えると、あの旅は人生という山へ登る最初の探検だった。その後のソ連崩壊や、鈴木宗男事件など、大きな山に向かうときに役立ったと思う」と話している。【信毎Web、04/03より引用】



新年度が始まり同窓会活動も活発になります。

■本部分行事では4月21日(日)が常任理事会と理事会、5月26日(日)が総会(ラフレさいたま)です。

■春日部地区浦高会では4月27日(土)に野田市で富田千種さんが出演するコンサートがあり、5月19日(日)には久喜麗和会との合同企画「地下神殿を巡る春日部初夏の旅」を予定しています。

■浦高25期会では、9月28日(土)の「出会って50年の同窓会」に向けて4月23日(火)に準備会を立ち上げます。楽しく企画を組んでまいりましょう。